



大阪部会(第 46 回)

日 時: 2015 年 11 月 28 日(土) 18:00~20:10

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 46 回の大阪部会の出席者は 12 名。

- (1) まず、篠原総一代表(京都学園大学)から、経済教育ネットワークの最近の活動が報告された。東京をはじめとする各所の部会の様子や教材開発の進展度合いなどである。あわせて今後の予定が報告され、2016 年 3 月 19 日(土)の年次大会(同志社大学)、1 月 23 日(土)の冬の経済教室 in 東京、1 月 30 日(土)の冬の経済教室 in 札幌などについて、シンポジウムや講演の内容が紹介された。また、2016 年 8 月に日本取引所と共催する夏の経済教室についても日程や場所の調整が始まっている。
- (2) 次に山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から「古代史学習における経済教育の視点」と題された授業実践が報告された。高校 1 年生向けの世界史 A の古代史のところで、どのように経済の観点が使えるかという問題意識から作成された指導計画で、「古代オリエントや地中海世界で成立した都市国家や世界帝国の特質について振り返り、グループワークによって現代社会と対比させその特質について考えさせる」ことを目標にしている。ワークシートに、古代国家の共通点を書かせることで、集積の利益や交易の利益の重要性、インフラ整備や統治体制の必要性などを考えさせている。
- (3) 引き続き、河原和之氏(立命館大学など)から「中学生と学ぶ日本の貧困と格差」と題する授業実践が報告された。イス取りゲームで高度成長期に比べてバブル崩壊以降の日本経済が様変わりしたことを実感させた後、貧困女子や非正規雇用から貧困に至るパターンなどを学び、それに対する政策について学習し、議論し、考察・提案に至る流れになっている。中学校公民の範囲で言えば、政治分野の憲法・社会権の箇所、経済分野の政府・財政、および社会保障の分野にもまたがっており、非常に面白く総合学習ができる教材だと評価する声が多かった。ただし、議論し考察するための材料として、多くのデータを必要とすることから、相当な準備と専門知識がいるとの指摘もあった。
- (4) 次に大塚雅之氏(三国丘高校)から「経済分野における思考力の育成を目指した教材開発」として、日本の年金問題について考えさせる実践授業が紹介された。年金の財源、年金の開始年齢の引き上げ、保険料の引き上げについて、グループで議論した上で、政策を選択させるワークショップ形式の授業である。特徴的なのは、政策を選択するときの基準を各グループに議論させ明示させている点である。たとえば、どの年齢層にとって有利か不利か、実行のしやすさ、財政への負担など、グループごとに独自の基準とそれぞれのウエイト付けまで明示させている。いわゆる「指導と評価の一体化」も意図して作成された授業案ではあるが、部会出席者からは、評価の



仕方が難しいとの意見があった。また、選択肢や決定事項が多いため、簡略化した方がよいという意見も多かった。そのためには、この授業の課題をもう少し明確にし、それから外れる事項は割愛して、「課題－指導－評価」の一体化を目指すという助言があった。

(5) その他、時事問題の取り上げ方についての意見交換などを行った。

(文責 野間敏克)

次回開催予定： 2016 年 2 月 6 日(土)、 時間は 18:00～20:00、場所は未定。